

ほくそえむ 「ほくそ笑む」

「ほくそ笑む」ほくそえむ（ほくそ笑む）「ほくぞえむ」ではない。

〔標準語のために〕1954〕

〔その他〕北叟笑む

【参照辞書辞典】『当て字・当て読み 漢字表現辞典』三省堂

〔北窓三友〕 ホクソウサンユウ 琴・詩・酒の三つをいう。〈白居易の詩〉

〔北叟笑む〕 ホクソえむ 物事が思いどおりにうまくいったとき、満足してひそかに笑う。

にやにやする。ほくそわらう。「独りひそかに―んだ」

〔故事〕「人間万事塞翁が馬」の主人公である北叟が喜憂に対して少し笑ったという故事から。

【参照辞書辞典】『漢検 漢字辞典』

ほく・そう 「北叟」

北辺の老人の意で、「淮南子・人間訓」に見える「塞翁が馬」の故事の塞翁をいう。

*東大国文研究室本十訓抄(1252)六・塞翁馬事「昔唐に北叟といひける翁（北塞人也。仍云北叟）。名をば喜道と云。）あり。かしこくつよき馬をなんもちたりける」

*班固・幽通賦「叛廻穴其若_レ兹兮、北叟頗識_二其倚伏_一。（注）濟曰、北叟、塞上翁也」

【参照辞書辞典】『日本国語大辞典』小学館